

# 北諸県地域の普及活動（普及活動月報）

令和 7 年 9 月

北諸県農林振興局

（北諸県農業改良普及センター）

## 目次

### I 管内の農業・農村の主な動き

### II 主な普及指導活動等の取組

#### 1 総合プロジェクトに関する普及活動

- （1）北諸県地域を支える多様なアグリプレイヤーの確保・育成
- （2）北諸県地域の持続可能な肉用牛産地づくり
- （3）地域を牽引する集落営農法人の育成による収益性の高い北諸県農業の構築
- （4）農地と水を活用した魅力ある大規模畑作経営体の育成

#### 2 専門プロジェクトに関する普及活動

- （1）北諸県版 水稻経営体の大規模化を支える省力栽培体系の確立
- （2）高品質茶生産、コスト低減による茶業経営の安定化
- （3）高い生産性を実現する施設きゅうり産地の育成
- （4）生産者が描く未来ビジョンを達成できるいちご産地の育成
- （5）産地ぐるみでブランド化に取り組むへべす産地の育成

### III プロジェクト以外の普及活動（一般活動）

# 北諸県地域の普及活動（普及活動月報）

令和 7 年 9 月

北諸県農林振興局

（北諸県農業改良普及センター）

## I 管内の農業・農村の主な動き

### （1）令和 7 年度第 1 回都城市農地中間管理事業地域推進チーム会議の開催

1 日、農地中間管理機構による転貸面積や、担い手への農地集積率等の説明がなされました。大規模経営体を中心に機構による転貸が進んでおり、今後も担い手への農地集積・集約に向けて取り組みを進めていきます。

## II 主な普及指導活動等の取組

### 1 総合プロジェクトに関する普及活動

#### （1）北諸県地域を支える多様なアグリプレイヤーの確保・育成

##### 1）就農相談を実施

管内で就農を希望している 9 名（水稻 1 名、施設野菜 1 名、露地野菜 3 名、露地野菜＋水稻 1 名、果樹 2 名、肉用牛繁殖 1 名）について、就農相談会を開催しました。うち 3 名については、栽培実績の数値や、今後導入予定の農業機械等の見積もりを元に、就農計画の作成支援を行いました。

引き続き、地域の大切な担い手につながるよう支援していきます。

##### 2）中古ハウス情報の収集・マッチングについての打ち合わせ

11 日、施設栽培希望の新規就農者が円滑に就農できるように、中古ハウスの情報収集・マッチング体制の構築に向けたイメージ及びヒアリングシート（調査票）の素案について、関係機関で協議を行いました。今後も体制の構築に向けて検討を進めていきます。

##### 3）農業バイトアプリに係る関係機関向け研修会

26 日、きゅうり専門部会での農業バイトアプリ活用推進に向けて、関係機関向けの研修会を開催しました。研修会では、アプリの運営会社から活用の実態や留意点などについて説明がありました。

今後は関係機関や農業者と連携し、活用に向けたマニュアルの整備等を進めることとしています。



（研修会の様子）

## (2) 北諸県地域の持続可能な肉用牛産地づくり

### 1) 子牛セリ市場での営農相談窓口設置

17 日、子牛セリ市会場に、営農相談コーナーを設置しました。受付会場に訪れる生産者から、飼料用稲の収穫及びイタリアンライグラスの作付け体系について相談を受け助言を行いました。今後も、農業者の多く集まる子牛セリ市で営農相談活動を行っていきます。

### 2) 関係機関（NOSAI）と連携した巡回指導

8、9 及び 22 日、NOSAI みやざきの獣医師と連携し、重点対象農家 3 件の巡回指導を行いました。NOSAI 獣医師による超音波装置を用いたフレッシュチェック（分娩後の卵巣等の機能回復確認）や妊娠鑑定等を行い、普及センターからは、ツマジロクサヨトウの防除対策についての助言を行いました。今後も関係機関一体となって、生産性向上に向けた支援を行っていきます



（繁殖巡回の様子）

## (3) 地域を牽引する集落営農法人の育成による収益性の高い北諸県農業の構築

### 1) 集落営農法人のキャベツの作業委託の取組

集落営農法人と露地野菜を生産する法人が連携し、キャベツの植付けを行いました（9～10 日）。作業受委託の取組をすすめる実証ほで、今後、加工用キャベツの需要が増えていく見込みであり、2つの集落営農法人で取り組んでいます。収穫は1月から2月頃にかけて行われる予定です。



（植付け作業の様様）

### 2) 最低賃金の上昇に伴う賃金の見直しについて

集落営農法人では、最低賃金の引き上げに伴う対応が課題であり、理事会で協議されています。昨年に続いて上げ幅が大きく、引き続き検討が必要な状況です。

## (4) 農地と水を活用した魅力ある大規模畑作経営体の育成

### 1) 畑かん営農推進に向けた担当者会の開催

24 日に担当者会を開催し、散水器具の導入推進及び貸し出し状況等について情報共有しました。また、今後の水利用増進にむけた方策についてブレーンストーミング法を用いて様々なアイデアを出し合いました。今回出されたアイデアを基に今後の推進方法を検討していきます。

## 2) かんしょ収穫機検討会

24 日に関係者約 10 名が参加し、管内の大規模法人において新たなかんしょ収穫機を検討しました。現在使用されている収穫機械に比べると大型で、収穫スピードが速い一方、旋回通路が 10m 以上必要なため、栽培方法を工夫する必要があることが分かりました。大規模化に伴う作業の省力化について、引き続き検討していきます。



(収穫機説明の様子)



(収穫期実演の様子)

## 3) かんしょ本圃巡回調査

19 日～29 日にサツマイモ茎・根腐敗症対策として、JA の営農指導員とかんしょ圃場（53 筆）を調査したところ、16 筆でサツマイモ基腐病、7 筆で茎根腐細菌病の発生を確認しました（昨年同時期調査：23 筆発生/55 筆）。

53 筆うち 24 筆は収穫済みでしたが、いずれも被害はなし、若しくは小規模で収穫が行われました。

## 4) かんしょ坪堀調査（普通堀り）

24 日、原料用かんしょ圃場（21 筆）の坪堀調査を実施しました。ムラサキマサリ、コガネセンガンの予測収量は平年並みで、みちしずくは昨年度に比べ塊根肥大が緩慢の傾向が見られています。

原料用かんしょの収穫は 11 月上旬まで続く予定です。



(坪堀調査の様子)

## 2 専門プロジェクトに関する普及活動

### (1) 北諸県版 水稻経営体の大規模化を支える省力栽培体系の確立

#### 1) 乾田直播現地検討会

29 日、乾田直播現地検討会が都城市高崎町及び三股町の蓼池で開催されました。

北諸県地区大規模稲作ネットワークのメンバー、関係機関・団体も参加し、乾田直播の生育状況や、栽培管理方法等について活発な意見交換が行われました。

今後は、生育調査を実施し、移植栽培との収量比較を行っていきます。



(現地検討会の様子)

### (2) 高品質茶生産、コスト低減による茶業経営の安定化

#### 1) 3 地区合同荒茶互評会の開催

12 日、北諸県農業改良普及センターで各地区茶業青年会員の茶生産技術向上を目的に、中部地区、西諸県地区、北諸県地区合同の荒茶互評会が開催されました。

生産者、関係機関等の職員 35 名が参加し、各地区で製造された一般製造荒茶 19 点について品質（外観・水色・香気・滋味）を評価し合いました。

互評会は生産者にとって良い刺激となった様子で、積極的な意見交換が行われました。互評会で得られた課題を今後の高品質茶生産に活用するとともに、各地区茶業青年会の更なる発展に繋がることを期待しています。



(お茶の外観を確認する参加者)



(お茶の香を確認する参加者)

## 2) 北諸県地区荒茶求評会の開催

25 日、北諸県農業改良普及センターで都城茶振興会員の茶生産技術向上と都城茶の銘柄確立を目的に荒茶求評会を開催しました。

生産者、関係機関の職員約 30 名が参加し、管内で製造された一般製造荒茶 6 点に加え、アミノ酸含有率が高く、色沢に優れる特徴を持つ本県の開発品種「きらり 31」7 点について、品質（外観・水色・香気・滋味）を評価し合いました。

求評会で得られた課題を今後の高品質茶生産に活用するとともに、歴史ある都城茶の更なる普及・知名度向上に繋がることを期待しています。



（お茶の味を確認する参加者）



（お茶の香を確認する参加者）

## （3）高い生産性を実現する施設きゅうり産地の育成

### 1) 産地分析シートを用いた前作の振り返りを実施

11 日および 18 日に農家を個別訪問し、産地分析シート（前作の月別反収などを記載した個人成績表）を基に、前作の振り返りを行いました。

前作は、生育初期の高温や曇雨天の影響により十分な樹づくりができなかったこと、作後半にはつる枯れ病の発生が多かったことなどが、課題として明らかになりました。

そのため、一部の農家では、土壌水分を保持して根の伸長を促すよう、保水剤の活用を計画するなど、自主的に改善へ取り組もうとする動きもみられました。

10 月からは、本格的に施設きゅうりの定植が始まります。今作では、主枝の着果負担の調整や、病害予防を目的とした夜間送風運転の稼働など、普及センターとしても課題解決に向けた取組を検証していきます。

## 2) 促成きゅうりの地温上昇対策展示ほを設置

29 日、定植時期の高温対策として「アルミ蒸着フィルム（マルチ）」の展示ほを設置しました。本資材によって地温の上昇が抑えられ、根張りの促進が期待されます。

今回、根を観察するためにクリアボックス（虫かご）も設置しており、今後は地上部の生育調査とあわせて、根の生育の様子も確認していきます。



（地温測定用のロガーを設置）

## （4）生産者が描く未来ビジョンを達成できるいちご産地の育成

### 1) 営農振興協議会 促成いちご展示ほ調査の実施

6 月上旬～11 月下旬までの毎月 2 回、促成いちごにおいて栽培技術展示ほを設置し調査活動を行っています。

昨年度問題となった 2 課題について、高温による花芽形成不良や収量減少対策として「バイオステミュラント資材」、ヨトウムシ類による苗の幼芽が食害され生育が遅れる被害への対策として「交信攪乱剤」を活用した展示ほに取り組みしており、成果は JA いちご専門部会員に共有し、次年度の管理に役立てられる見込みです。



（交信攪乱剤の圃場設置）

### 2) JA みやざき都城地区本部いちご専門部会 花芽検鏡の実施

18 日に、JA いちご専門部会員の花芽検鏡を JA 営農指導員と行いました。高温による不時出蕾（花芽分化の早進化）が懸念されていましたが、花芽分化率は 32.1%で、昨年 9 月 13 日の結果と花芽分化率は同等であり、平年並みの状況でした。

一方で、個別園地内での花芽分化状況のバラツキが地域全体で確認されており、日当たりやかん水方法などの原因を確認する予定です。



（JA 指導員と花芽検鏡実施）

## （５）産地ぐるみでブランド化に取り組むへべす産地の育成

### １）調査研究「へべすの省力化に向けた樹形・剪定方法の検討」第１回検討会を開催

16 日、北諸県農業改良普及センターにて、標記検討会を開催し、県内果樹普及員、試験場果樹部、専技の 9 名が参加しました。

室内検討では、へべす栽培における剪定に関する現状と課題を整理し、現地 2 ほ場で、省力的な剪定手法の実証に向けた検討を行いました。

宮崎県オリジナルの特産果樹であるへべすの生産量維持・拡大に向け、今後とも現場の課題に即した対策を検討します。



（室内で現状と課題を整理） （現地でトリマー剪定を検討） （１樹で試験的に剪定）

## Ⅲ プロジェクト以外の普及活動（一般活動）

### （１）（一社）宮崎県農業法人経営者協会と意見交換会を行いました。

19 日、宮崎県農福連携推進センターを兼務する同協会と農福連携に関し普及センター職員との意見交換会を行いました。

農福連携を進めるにあたり、中間支援機関の存在は重要となるが県内では事例が少なく、同様な取組みとして同協会が手がける共同受注システムによるマッチング事例の紹介がありました。管内農福連携の事例は比較的多いが、まだまだ十分理解していない農業者も存在するので人材確保の手段として広く周知する必要があります。

### （２）都城市 S A P 会議 役員会の開催

1 日、プロジェクト発表の候補者や、青年農業者会議の全国大会や全国担い手サミットへの参加、まつり等のイベントへの出店、S A P 会員の加入促進活動、今後の研修内容等について、協議が行われました。今後も、地域の農業を支えながら様々な活動を展開していく予定です。

### (3) 令和7年度西・北諸県農業経営指導士合同研修会の開催

25日、えびの市、小林市において西・北諸県農業経営指導士合同研修会が開催されました。

この研修会は、毎年、西諸県、北諸県の両地域で交互に開催され、農業経営指導士の資質向上と交流を深めるために実施されるもので、今年度は西諸県地域の主催で開催されました。

農業経営指導士の参加者は北諸県地区が3名、西諸県地区が6名で、JAえびの市地区本部のくり



(選荷場での研修)

選果場、くりの加工業務向けの商品を製造している缶詰工場、えびの市内のくり生産者のほ場、農業経営指導士が経営している果樹園の計4カ所を視察研修し、研修会終了後は交流会が行われました。

参加した農業経営指導士からは、日頃、訪れることのない施設やほ場を視察研修できて、非常に参考になった等の感想が聞かれました。

今後も、農業経営指導士の主体的な活動を支援していきます。

### (4) 都城市特別融資制度推進会議の開催

24日、都城市特別融資制度推進会議が開催されました。今月は、計11件（近代化1号資金3件、近代化3号資金5件、青年等就農資金3件）の申請があり、8件が書面にて承認され、3件が継続審議となりました。

### (5) 三股町特別融資制度推進会議の開催

20日、三股町特別融資制度推進会議が開催されました。今月は近代化1号資金1件の申請があり、書面にて承認されました。

### (6) 三股町農業経営改善計画認定審査会の開催

1日、令和7年度第2回三股町農業経営改善計画認定審査会が開催されました。

審査の結果、認定申請のあった計11件（再認定11件）すべての計画が認定されました。

### (7) 大豆種子のほ場審査を実施

3日に都城市で採種を行っている大豆「キヨミドリ」、「フクユタカ」のほ場審査を行いました。

8月末に開花期を迎え、生育は順調です。近年は、台風等の影響で種子量の確保が難しくなっていますが、生産者、関係機関と連携しながら優良種子の生産に取り組んでいきます。



(ほ場審査の様子)

#### (8) 種子センター運営委員会を開催

18日、JA都城採種部会の生産者やアグリセンター都城等の関係機関と種子ほ場審査の状況、収穫等作業の日程調整、確認を行いました。

特に、今年度は、主食用米新品種「南海189号」が新たに増えたことから、作業計画について情報共有を行いました。種子の安定確保に向け、関係機関が一体となって取り組んでいきます。

#### (9) 野菜連絡協議会南部支部研修会で農作業安全研修

24日に野菜連絡協議会南部支部研修会で10名に対し農作業安全研修を行いました。農林水産省作成の農作業安全研修実施強化期間研修資材（基礎研修向け）と一般社団法人日本農業機械化協会作成の農作業中の熱中症を防ぐをもとに説明を行いました。

#### (10) さといも大和39 展示ほ坪掘調査

29日に、JAや畑作園芸支場協力のもと、さといも展示ほの坪掘調査を実施しました。今回は、畑作園芸支場で選抜された「大和39」と、未選抜の「大和」を比較し、子・孫・ひ孫のいも重量を調査しました。県内各地で同様の試験が実施されているため、情報共有しながら「大和39」の今後の方針について検討予定です。

#### (11) JAみやざき都城地区本部ピーマン部会の高温対策事例調査（小林管内）

8日、小林市にて、生産者3名を含む6名で標記事例調査を行いました。

近年、高温による尻腐れ症状に悩まされており、対策として導入された品種の栽培事例を見せていただきました。

高温条件下でも着果が多いという品種を実際に見て、生産者も次作に向けて前向きな気持ちになったようです。さらに、高温対策として外気導入機材を設置し、また畝数を減らしても反収を維持している栽培事例も見ることができ、有意義な事例調査となりました。



(肉厚で尻腐れが少ない品種) (畝数を減らしても収量維持した事例) (外気導入事例)

## (12) 県普及協会 資質向上研修の開催

30日、西諸県農業改良普及センターおよび西諸県管内にて、北諸県と西諸県の2つの普及センターが合同で、支部間研修を実施しました。職員は、3コースに分かれて現地視察や研修を行い、最後に普及センターに戻って、研修内容をそれぞれ発表しました。大規模くり園地や、肉用牛の放牧活用事例、野尻の水利の歴史について学ぶことが出来ました。



(視察の様子)